

夢へ前進 iPSC細胞研究

京都大の山中伸弥教授らが作製に成功した万能細胞（iPSC細胞）の成果をいかそうと、国内の各機関でiPSC細胞を使った研究が広がり、臨床応用をめざした基礎づくりが進んでいる。傷んだ組織や臓器をおぎなう再生医療を大きく前進させることの可能性があり、期待は高まっている。

（佐藤久憲、竹石豊子）

肝臓、赤血球、心筋づくり・：

「細胞移植による治療をめざす」といって、iPSC細胞は実験的です。横浜市立大学の山口英樹教授は、「iPSC細胞や、体内で臓器の細胞」についての研究で、安全性や効率を高める研究を計画

東北大

目の角膜になる幹細胞をつくり、移植して再生をめざす

東京大

血液成分である血小板づくりなどに取り組む

自治医科大学

腎疾患用めざし、人間に近いマウスを使った実験などを計画

血液



神経・心筋



神経や心筋をつくり、脊髄損傷などの臨床応用をめざす

慶應大

体内でのがん化を防ぐなど、安全性や効率を高める研究を計画



埼玉医科大学

体内でのがん化を防ぐなど、安全性や効率を高める研究を計画



iPSC細胞づくり

京都大

iPSC細胞研究の提点。
安全性の向上やしきみの解明などに取り組む

iPSC細胞



ES細胞

東京大の中西英樹教授らは、

ウスのiPSC細胞から血小板をつくった。現在はiPSC細胞の研究を始めた。

東京大の山中伸弥教授は、マウスのiPSC細胞から血小板をつくった。現在はiPSC細胞の研究を始めた。

皮膚細胞を注入して筋肉を再生する

皮膚細胞

皮膚細胞を注入して筋肉を再生する

皮膚細